岐宿中学校だより　理想開拓

令和６年９月６日(金)
第５号
文責　校長　田端　幸一

「宿題」について考えたこと

２学期が始まりました。始業式では、「夏休みの様々な体験を２学期に生かしてほしい」「２学期も引き続き、なりたい自分になれるように頑張ってほしい」ということを子供たちに伝えました。

さて、今回は「夏休みの宿題」について、思うところを書きたいと思います。昔は夏休みの宿題を出せない子供は大変でした。終わるまで先生は容赦しませんでしたから。しかし、時代は変わります。宿題を出せないことで、学校に行けない子供が増えるのです。中には命に関わる事案も・・・。ですから、学校も変わります。「宿題を出していない子供を追い詰めすぎないこと」というようなことを職員で確認するわけです。本校では、宿題を終わらせることができていない子供には、昼休みと放課後、約１時間（27日～本日まで）を使って、子供たちができる可能な範囲で学習させましょうということになりました。もちろん、先生たちも休憩時間返上で子供の学習を見守ります。

これまで多くの学校に勤めてきました。どの学校にも学習につまずきがあり、机に向かっているけど宿題を出せない子供がいます。また、友達との関係や家庭の問題で悩み、学習したくてもできない環境にいる子供がいます。だから、教師はこのような子供たちの実態に応じて、適切に対応する必要があります。「出せ！出せ！出せ！」ではだめなのです。本校にも、「先生、一生懸命に取り組んだけど分かりませんでした。」と正直に言ってくる子供がいました。えらいなと思います。このような子供を助けられる学校でありたいです。

一方、気になる子供もいます。それは、**できるのに**しない子供です。中には先生や親に嘘をついたり、ごまかしたりする子供もいます。先ほど述べた昼休みや放課後の学習会に無断で参加しない子供もいます。こういうことが習慣化していくと恐ろしいですね。**できるのに**、しなければならないことから絶えず逃げ、逃げるために、ごまかそうとする子供を周りの大人が見逃したら、その子供は幸せになれるでしょうか。だから、このような子供には、毅然とした態度で叱ってくださいと先生方にお願いしています。彼らを助けるためです。ということは、同じ宿題をしていない生徒に対する指導が変わります。これは「えこひいき」ではありません。一人一人に応じた適切な指導です。

全国には、宿題０という学校もあるそうです。家庭での学習は、子供の主体性に任せるという考えからでしょう。実は、私もそうしたいのです。しかし、今の岐宿中の子供たちの様子を見ていると、宿題をなくせば、スマホやゲームの時間が増え、ますます家庭学習の時間が減ることは明らかです。

長崎県立大学長の浅田和伸氏はこういうことを述べておられます。「基本的な生活習慣や学習、読書の習慣も含め、子供のうちに『良い習慣』を徹底的に身に付けてやることが、その子の人生にどれだけ大きな助けになるか」。また、こんなことも言われています。「助けてくれる人がそばにいなくなった後でも、一人でできる力を身に付けること。それが限られた時間だけ子供を預かる学校の責任ではないか。」

２学期も引き続き、岐宿中学校は、職員一丸となって、６２名一人一人に応じた適切な指導や支援に力を尽くします。特に、子供たちの学びの質を高めるために、授業づくりに力を入れていきます。本学期もどうぞよろしくお願いします

岐中生の活躍

７月・８月は文化・運動両面で本校生徒の活躍を見ることができました。前号で県中総体のことには触れましたが、それ以外の成績を紹介します。

○「社会を明るくする運動」下五島地区弁論大会
　優秀賞　松下優愛
○全国中学校総合体育大会柔道競技
　男子個人７３kg以下級　第５位　松本簾央
　男子個人５０kg以下級　１回戦勝利　川村多運
○全国中学校総合体育大会ソフトボール競技
　１回戦勝利　山本勝斗（長崎のクラブチーム所属）
（県中総体準優勝　九州中学校総合体育大会第３位）

【社明弁論大会表彰後】